令和5年度

徳島市渋野小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

①基礎・基本を徹底し，自己表現できる授業の実践
②主体的・対話的で，深い学びからの授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員 校長（平山），教頭（木村展），教務主任（赤堀），研修主任（亀井），学力向上推進員（西條），国語科主任（貞方），算数科主任（赤堀），理科主任（杉本），社会科主任（柏尾）

校長

平山　康史

【各校の取組状況の把握について】

学期末にテスト結果の集計及び児童対象のアンケートを実施し，結果を分析する。

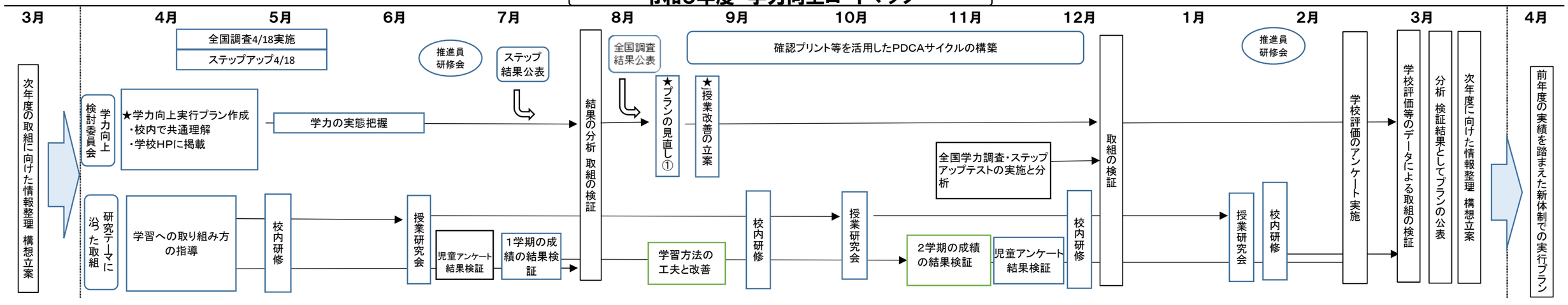
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○令和4年度は，国語科の「知識・技能」算数科の「知識・技能」の正答率80%以上を目標とし，学校全体で上回ることができた。 ○読書の習慣がついている。 ●話を聞く力，文章を読み取る力，漢字の定着度，計算の能力について個人差が大きい。	・国語と算数のテストにおいて「知識・技能」の平均正答率が80%を上回る。 ・知識や技能を活用して自らの課題を解決する学習を充実させる。 ・議論や探求活動などのグループ活動と，反復的な練習との内容および時間的なバランスを考慮して基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ・タブレットの効果的な活用方法について情報交換する場を設定する。	・一単位時間及び単元の中に反復練習の時間を意図的に設ける。 ・朝の活動を，学習の内容の習熟や進度の調整に効果的に活用する。 ・読書の時間を確保し，様々な分野を読むように導く。 ・教員が相互に授業を参観し，指導力の向上を図る。	・国語と算数のテストにおいて「知識・技能」の平均正答率が学校全体では国語は75%，算数は83%だった。80%を上回ったのは国語は3学年、算数は4学年だった。 ・朝の活動を活性化することができてきている。 ・読書の時間を確実につくることができてきた。	・国語の「知識・技能」の平均正答率が1学期末75%から2学期末82%に向上した。全学年80%以上を上回った。 ・算数の「知識・技能」は全体としては80%を達成することができたが，6年が63%と低い結果となった。 ・議論や探求活動などのグループ活動と，反復的な練習との内容および時間的なバランスを考慮して基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができたのではないかと考える。 ・朝の活動を活性化することができてきている学級と、	・知識や技能を活用して自らの課題を解決する学習を引き続き充実させる。 ・タブレットの効果的な活用方法について情報交換する場が少なかった。 ・次年度も議論や探求活動などのグループ活動と，反復的な練習との内容および時間的なバランスを考慮して基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○話すことに慣れ，発表する児童が増えてきた。 ○日記指導の継続，行事をふりかえっての作文など，国語以外でも書く機会を多く設け，書く力を高めることができつつある。 ●令和4年度の児童のアンケートにおいて，「自分の考えを発表したり，文章に書いたりするのが得意である」の項目が60%を下回っている。 ●話し方・聞き方のマニュアル的なものを発達段階に応じて活用し，話す力・聞く力の向上を図る。 。	・主体的で対話的な学びの観点から話合い活動を重視し，学習のねらいに迫ることができるようにする。 ・思考をうながす発問「なぜ」「どうして」などを意図して取り入れていく。 ・「授業中、進んで発表したり話し合い活動に参加したりしている」「自分の考えを文章に書くのが得意である」と考える児童が70%を上回る。 ・様々な教科・領域で，自分の意見を記述する機会を設ける。	・授業の中に，話し合いや学び合いの場，ペアや少人数グループでの学習を設定する。 ・授業の中で，自分の考えを筋道立てて文章に書いたり表現したりする機会を意図的に設ける。 ・話し方や適切な音量，発表の仕方を指導する。	・「自分の考えを文章に書くのがすきである」の項目が全体として62%に向上した。しかし1年生以外は平均50%ぐらいであった。行事やイベントがあった場合の感想など書く機会を多くとり，書くことへの抵抗を少なくしていくことが大切である。 ・話し方・聞き方のマニュアルを作った学年は少なかった。目に見える形で作ると子どももわかりやすい様子だった。 ・「自分の考えを発表するのがすきである」の項目は全体として55%であった。	・「自分の考えを文章に書くのがすきである」の項目が全体として63%に向上した。行事や学習した後のふりかえりなどの機会が多くもてたからではないか。 ・「自分の考えを発表するのがすきである」の項目は全体として56%であった。様々な教科・領域で，自分の意見を記述したり，発表したりする機会を設けているが，児童の自己評価としての数値が低いままであった。 ・自分の思いを伝えようとする児童が増えてきて，話し合い活動では活発な意見が出ている。	・授業の中に，話し合いや学び合いの場，ペアや少人数グループでの学習を設定する機会をもっと増やしていく。 ・日記指導を継続してできるように工夫して行い，自分の考えをまとめたり深めたりする前に書くことへの抵抗感を少なくしていかなければと考える。 ・何でも言える学級づくりを進めていき，進んで発表ができるようにしていく。 また自己表現はいろいろな方法で表現することができることを伝えていく。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	
○家庭学習にまじめに取り組み，学習の習慣がつきつつある。 ●令和4年度の児童のアンケートにおいて「進んで学習に取り組んでいる」の項目が，学校全体においてはほぼ80%を達成できているが，児童の個人差および学年間の差が大きい。 ●「学年×10＋10分以上」の家庭学習をしている」の項目は1学期より2学期が下がり全体として60%に達成していない。	・自ら課題を見いだし，主体的に学習に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をふり返り、自らの課題を解決するために粘り強く取り組むことができる。 ・「各教科の学習に進んで取り組んでいる」児童が80%を上回る。 ・「学年×10分」の家庭学習をしている」児童が70%を上回る。	・児童の興味・関心を高める教材の開発，単元構成や導入の工夫などに引き続き取り組み，児童が主体的に学習できるようにする。 ・「とくしま授業技術の基礎・基本」を活用し，学習規律の徹底を図る。 ・家庭学習の手引きを活用し，学習の習慣化を図る。 ・家庭学習におけるタブレット活用について情報交換する場を設定する。	・「進んで学習に取り組んでいる」は82%「学年×10＋10分以上の家庭学習をしている」の項目では83%と両項目とも高い結果となっている。引き続き主体的な学習の取り組みを進めていく。 ・　児童の個人差については家庭学習が継続してできるように声掛けを続けていく。	・「進んで学習に取り組んでいる」の項目が，学校全体としても83%と高数値であった。 ・「学年×10＋10分以上」の家庭学習をしている」の項目は学校全体においては，1学期末83%だったが2学期末は74%に下がっていた。ほとんどの学年で1学期末より下がっていた。 ・アンケートの内容で「毎日の学習」というところで自己分析した結果，数値が低いのではないか。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」を活用し，学習規律の徹底を図る。 ・家庭学習の手引きを活用するために，教室に掲示する。 ・低学年の内から家庭学習の習慣化を図り，宿題をすぐにするなど学校から帰ってからのリズムをつくっていく。

令和5年度　学力向上ロードマップ